（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和５年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「暮らしをつくる」を楽しむ日常の価値創出拠点整備・運営事業
事業主体 （連絡先）	一般社団法人生活民芸舎 090-6039-6745（代表・佐藤あゆ）
事業区分	その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	3,145,312 円（うち支援金：2,389,000 円）

事 業 内 容

木曽地域での暮らしを楽しむ産業振興・移住促進拠点をつくるものです。山に囲まれた美しい地域という信州の文化的背景から考え、現代の生活者や移住希望者と「暮らしをつくる」楽しみを見出すデイリーツーリズム事業を展開するとともに、それを実現するハード整備を行います。日常の魅力から信州を捉え直すことで、新たな価値創出を図ります。

・シェア工房、屋根改修などの拠点整備
・「暮らしをつくるワークショップ」の実施

【暮らしをつくるワークショップ（漆継ぎ講座）実施の様子】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① シェア工房および屋内外ワークショップスペースを有する産業振興・移住促進拠点を設置した。
② 拠点自主施工作業で 23 名、拠点の非常設・常設利用で計 4 名の利用者を創出した。
③ 暮らしをつくるワークショップでは合計 41 名の参加があり、信州の良さを伝えることができた。うるし教室参加者 10 名へのアンケートでは継続的に地域に関わりたい人材が 7 名得られた。
④ 本事業を通して合計 103 名の関係人口が得られた。

【目標・ねらい】

① シェア工房等の設置
② シェア工房利用者の創出
③ 暮らしをつくる WS の開催
④ 地域に関わる人材の増加

※自己評価【 A 】

【理由】
・産業振興・移住促進拠点の整備が進捗し、年間を通したワークショップが開催された。
・当初想定よりも多くのワークショップ参加が得られた。

今後の取り組み

産業振興・移住促進拠点は、元気づくり支援金を活用することで「集まる」場所として機能しました。今後は、「長く滞在する」場所としての整備を行い、シェアキッチンとトイレ、シャワーを整備し、宿泊室を設けます。
また、ソフト事業でも、年間を通して地域を訪れるプログラムを実施することで関係人口を増やし、それら人材と地域との結びつきを強化します。また、この施設自体が自分の居場所と感じてもらえるように、会員制度や宿泊事業を開始します。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある